

平成23年度 年次報告会における コーディネーターによる講評

年次報告会

工業高等学校：	平成24年1月16日
農業・水産高等学校：	平成24年1月20日
商業高等学校：	平成24年1月25日
高等専門学校：	平成24年1月30日

この資料は、年次報告会において、各コーディネーターの先生方が、お話しになった講評を取りまとめたもので、特に、コーディネーターの先生方の許可を得て掲載するものである。

大きな観点からの講評もあれば、実践的な観点からの講評もあるが、いずれも知財マインドを持ち、創造力・実践力を育む人材育成の実践に有用なものである。

教員教官の学校が所属する学校区分の講評のみならず、他の学校区分の講評も役立つと思われるので、ぜひご覧になってほしい。

1) 工業高等学校 (平成24年1月16日)

コーディネーター

全国知財・創造教育研究会 会長

愛媛県立東予高等学校 教頭

鹿児島県教育庁 高校教育課 産業教育係主任指導主事兼産業教育係長

山口大学大学院技術経営研究科 教授

長崎県立島原農業高等学校 教諭

籠原 裕明 氏

内藤 善文 氏

満丸 浩 氏

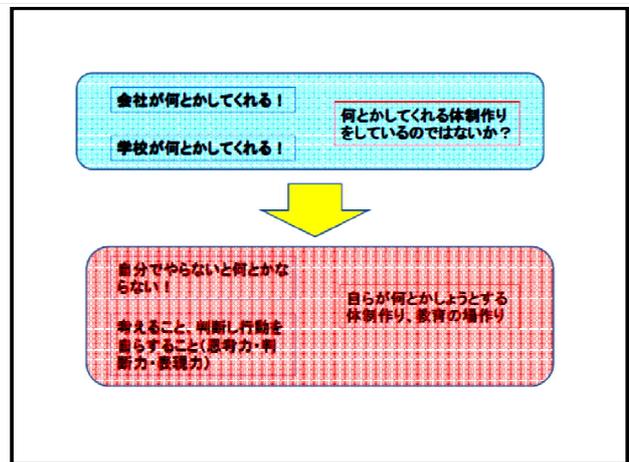
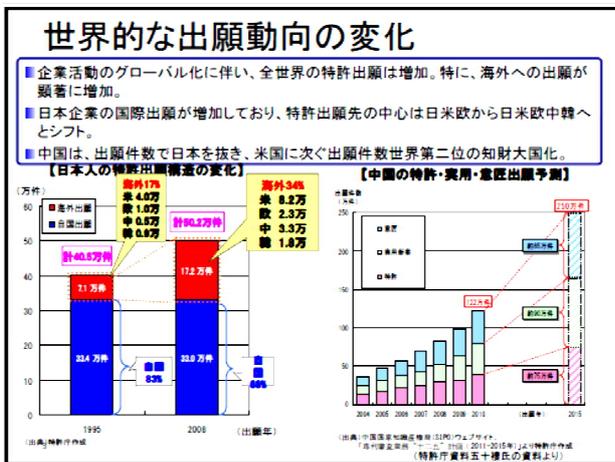
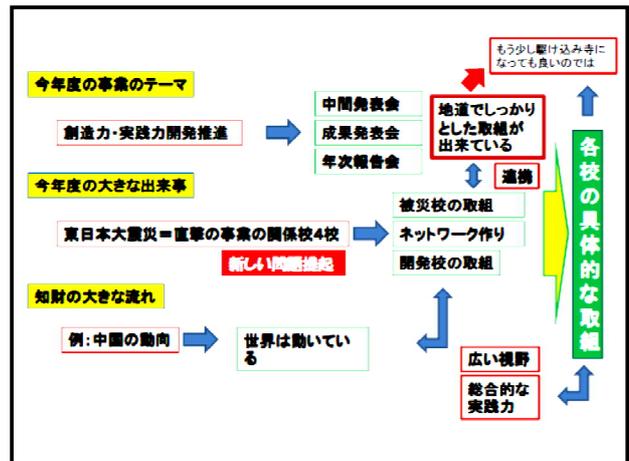
木村 友久 氏

陳内 秀樹 氏

1-1) 籠原 裕明 コーディネーターの講評

年次報告会のまとめにかえて (工業)

コーディネーター
籠原裕明



未来を担う創造的・実践的で産業に寄与する若者を育てる、各校での地道な取組と開発推進校の活動を通じた情報共有(配付される資料・データを含めて)・連携(地域や過去の経験校を含めて)を期待しています!

科学の発展、それは科学の進歩ではない、人の創造力(想像力)(知恵)が進歩することである
NHK番組から

<お願い>

- 1 ネットワークへの参加(次年度を含めて)
- 2 DVD製作、活用へ協力を!
- 3 成果発表会の資料の公開の協力を
(開発推進校対象)

1-2) 内藤 善文 コーディネーターの講評

本日はお疲れさまでした。私からはお願いを含め、4点お話をさせていただきます。

B班では8校の御発表を拝聴いたしました。ここ数年、毎年感じることはありますが、本来の「知財教育」の実践がますます充実してきているなあと心強く思いました。

従来の教育であれば、例えば、数学であれば、設定された問題があり、それを解決するための答、つまり解を求めることが「唯一の勉強方法」でありました。優秀な学生であっても、「この系統の問題ができれば、こういう考え型で解決できる」という答に至るまでの考え方までを丸暗記すると聞いております。こうした従来の学習方法では、本当の意味での「生きる力」が身に付いた人材が育つとは思えません。

そこで、従来の教育を改革するのが、この知財教育です。世の中の解は一つではありません。例えば、少し古いですが、ビデオデッキという β とVHS戦争です。機械の性能だけでいえば、 β が勝利するはずでした。現実には、VHSが勝利しました。この現実は、何を示唆しているのでしょうか。

つまり、理屈だけでは世の中は動かないということです。解は一つではないし、その解に至るまでの道筋も一つではないことを、この知財教育で学ぶことができます。本当の意味での「生きる力」のある人材育成をすることができると思います。

2つ目は、もっと標準テキストの指導書(マニュアル)を利用してほしいと思います。「いろいろと疑問があります・・・」という御発言が、御発表の中にもありましたが、ほとんどは、マニュアルの中にその解決方法が紹介されております。どうぞ、御利用ください。

3つ目は、学校設定科目に挑戦してほしいということです。まとまった教育をするのであれば、是非、学校設定教科の設定や、学校設定科目を設けてほしいと思います。既存の科目の中では、やや無理があるのではないかと考えております。

4つ目は、各学校に帰られましたら、是非、本日御発表された内容を、職員会議や校内研修会等で報告してほしいということです。以外と普通科の先生方が興味をお持ちにならないかと思っております。

以上、簡単ではございますが、私から感想を述べさせていただきました。

1-3) 満丸 浩 コーディネーターの講評

知的財産教育を通して、生徒の生き生きとした姿を引き出し、中には、生徒の発表やレポートを通して、言語活動の充実や表現力の育成を意識した授業の報告があり、感心しました。報告書を作成する際は、授業前後のアンケートや感想など、生徒の変容も載せてください。

また、今後は、創造・保護・活用の活用を意識した教育、授業の到達目標や評価規準を明確にした授業の展開を期待しています。

1-4) 木村 友久 コーディネーターの講評

知財教育実践の考え方
(年次報告会まとめに変えて)

山口大学技術経営研究科 木村友久
©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 1

概要

- 技術高度化等への対応
技術の高度化、事業活動の国際化、開発途上国のキャッチアップ等に対応する形で、知財化および知財管理も更に高度な戦略が求められるようになった。
- 知財人材育成の環境変化
日本を取り巻く周辺国で知財人材育成が質量ともに充実しつつある。また、初等中等教育機関の学習指導要領改訂では、小中高において何らかの形で知財教育を実施することが規定された。

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 2

概要

- 知的財産を素材とする教育の多面的効用
知財教育は最終出力としての「知財専門職人材」育成だけを目標としているわけではない。知財を教材に利用することで、学習者の、創造性育成、社会認識形成、就業力向上、専門分野学習の効率化等々の多面的な効用を実現することができる。
- 身近な話題を迅速に教材に取り込む
エンジン、醤油容器、ペーパーフィルター等、身近な話題を利用して、学習者の興味を引きつける指導。教材作成時の法的な疑問は、専門家に質問しよう。

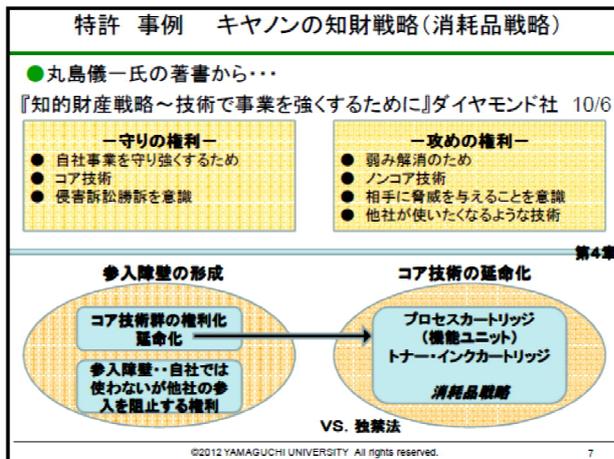
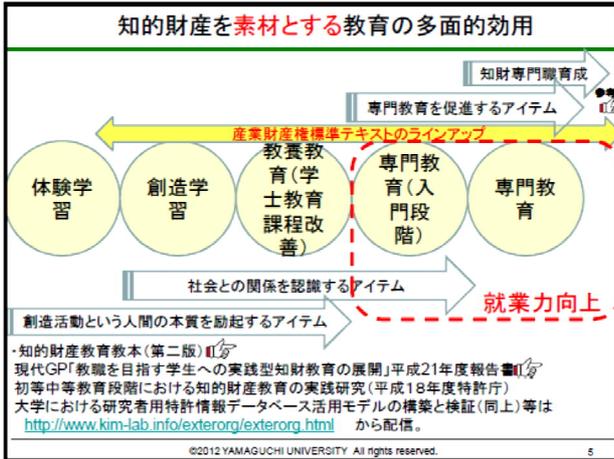
©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 3

技術高度化等への対応

知財戦略

従来	従来課題に新規課題が追加	現在
出願管理・権利化	高度化・加速化 実際には・・・難・・・	オープンイノベーション
研究開発マネジメント		オープンソース契約(GPL等)
職務発明のマネジメント		事業再編・企業買収と知財
権利共有の取り扱い		私的録音録画補償金事件
共同研究		招きテレビ事件等 最高裁判決
グラントバック		技術標準化戦略

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 4



商標・不正競争防止法 事例

●時事ネタを話題に考えさせる・・・面白い恋人

【登録番号】第4778317号 【登録日】平成16年(2004)6月11日
 【出願番号】商願2003-60719 【出願日】平成15年(2003)7月2日
 【商標(検索用)】北海道銘菓「白い恋人」
 CHOCOLAT BLANC ET LANGUE DE CHAT[®]Handmade & Original[®]Shiroi
 \Koibito[®]ISHIYA\GUARANTEED
 【称呼】ホッカイドーメーカーシロイコイビト、シロイコイビト、ショコラブランエラングドゥシャ、ハンドメードアンドオリジナルシロイコイビト、イシヤギャランティード、イシヤ
 【区分数】1
 【商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務】
 30 チョコレート、チョコレートを使用してなる菓子、チョコレートを使用してなるパン



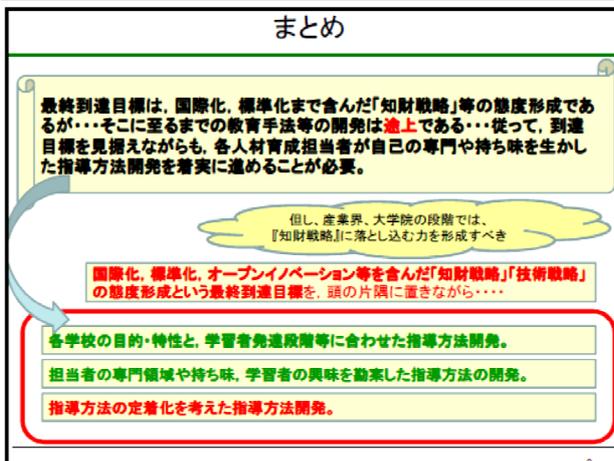
称呼類似

外観類似

観念類似

・市場、需要者の重複・・・陳列場所等々

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 8



1-5) 陳内 秀樹 コーディネーターの講評

近年、各校で教材開発（紙タワー教材、紙風車教材、ミウラ折り等）が進み、年度当初の研修会やD
VD配布の効果があって、それが共有化され各校で実践されています。さらに、各校の生徒やカリキュ
ラムの状況に合わせてそれらの教材を工夫して独自のものにアレンジして実践されており、日常の授業
と有機的に結びついた実践報告がなされました。

このことを踏まえ、さらに教材の蓄積と教職員間相互の共有化や、指導法や意見交流を目指して、開
発推進校実践交流ネットワークを立ち上げ、ホームページを運用しています。ぜひご活用いただければ
と思います。

2) 農業・水産高等学校（平成24年1月20日）

コーディネーター

全国知財・創造教育研究会 会長
長崎県立島原農業高等学校 教諭

籠原 裕明 氏
陳内 秀樹 氏

2-1) 籠原 裕明 コーディネーターの講評

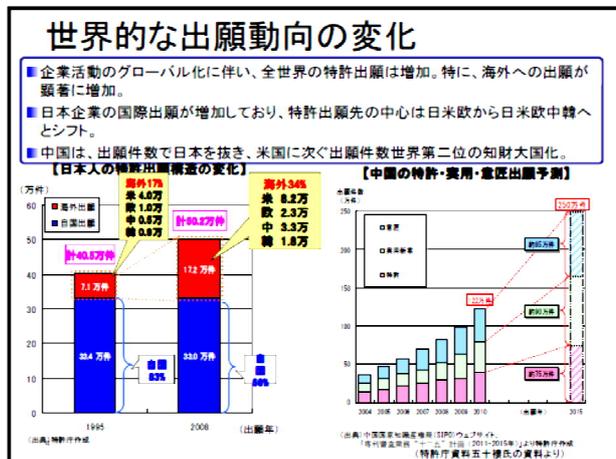
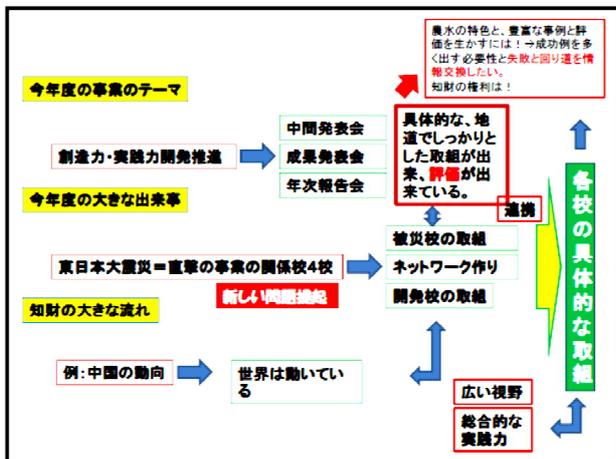
年次報告会のまとめにかえて
(農業)

コーディネーター
籠原裕明

生きることに密着した
話(教育)は、素晴らしい

何もかもなくなった中で
紙と鉛筆の取組からスタート
あるもので何が出来るのか!

農業・水産の次年度取組の継続と連携に向けて全
体会で実施!



農林・水産に
チャンス有り！

人財育成は不可欠

農業・水産教育のイノベーション←知財
学習からの支援

教育の内容がしっかり
していること

会社が何とかしてくれる！

何とかしてくれる体制作り
をしているのではないかな？

学校が何とかしてくれる！



自分でやらないと何とかな
らない！

自らが何とかしようとする
体制作り、教育の場作り

考えること、判断し行動を
自らすること(思考力・判
断力・実行力)

未来を担う**創造的・実践的**で産業に寄与する若
者を育てる、各校での**地道な取組**と開発推進校
の活動を通した**情報共有**(配付される資料・
データを含めて)・**連携**(地域や過去の経験校を
含めて)を期待しています！

科学の発展、それは科学
の進歩ではない、人の創
造力(想像力)(知恵)が進
歩することである

NHK番組から

<お願い>

- 1 ネットワークへの参加(次年度を含めて)
- 2 DVD製作、活用へ協力を！
- 3 成果発表会の資料の公開の協力を
(開発推進校対象)

2-2) 陳内 秀樹 コーディネーターの講評

年次報告会 まとめ

陳内秀樹

年次報告会での先生方の発言抜粋1

- ・ 知財を学ぶのではなく、**目指す農業のために知財をどう活用**すればよいのかという学び
- ・ マイナーであれば**マイナーなほどよい**
- ・ **強行突破**と共同
- ・ **すごい発明をした人たちは、大きなかべを乗り越えてきた。わたしもそうありたい。**
- ・ 「**教師をやってきて、初めておもしろい**と思いました」
- ・ 生徒が**日常の学習でアイデア**を出す→それを拾う！
- ・ 生徒の**実習に対する姿勢が変わった**。地域の見る目が変わった。

年次報告会での先生方の発言抜粋2

- 考えること、チャレンジすることを私は知財から学びました。**じゃんけんに負けてよかった。**
- 火に油を注ぐのが教員の仕事。
- 生徒の声:「どうするっぺ...」→「**こうするっぺ!**」
- 水産は知的財産の**宝庫**だ!
- 寮で、**1年生全体**に知財教育を展開する
- 楽しい、**もっと**やりたい!
- **将来の日本のために!**

気づき・・・すべてが特徴的!!

- 農業教育での知財教育は、**地域資源を活かした「地的財産」教育**となっている。
- 知財教育の実践に先生方それぞれの「**理念**」がある
 - 生徒には「**夢**」がある
 - それらが地域の「**光(灯)**」になっている
 - 中央で発表されることで日本の「**希望**」になっている
 - 生徒が、**地域のために**日本のためにと、当たり前を意識しているところがすごい!

成果と課題

【成果】

- 担当の先生は、知財を使って、農業(産業)や地域を教えることが、すでにできる。



まだもっと!という 他の方にも...
授業力向上欲がすごい!

【課題】



校内での普及

では...何が壁になっているのか?

壁になっていると感じるものは?

- 「知財教育をしなければならないの?」
→中教審に文科省から出された資料を見てみるとその必要性は謳われている。
- 「...といっても、基礎・基本がまず大事でしょ!」
→基礎基本って何ですか?
栽培飼育技術=農業教育の基礎基本という考えは、時代に合わなくなってきているのではないのでしょうか?

知財教育の必要性

専門教科「農業」の現状と課題等について

(2) 農業教育の現状

② 問題解決能力、創造力等の育成

...略...

- 知的財産(種苗登録など)に関する学習を導入する。

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
産業教育専門部会(第3回)配付資料から抜粋

基礎基本の定義

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
(1) **社会の変化や科学技術の進展に伴い、社会的な自立等の観点から子どもたちに指導することが必要な知識・技能、**
(2) **確実な習得を図る上で、学校や学年間等であえて反復(スパイラル)することが効果的な知識・技能、**
等に限って、内容事項として加えることが適当である。
...といった類型が考えられ、さらに具体的な検討を深めることが必要
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(第4期第12回)配付資料より抜粋

産学連携のポイント

産学連携を教材として

…どういふ人材を育成したいのか

- 自動車学校モデル
コースで実習→路上教習→運転できる力
- 専門高校
校内で実習 →産学連携→産業界で活躍する力
誰が運転？

生徒にハンドルを握らせたい。

→交通ルール≡知財権関係法規

→教員が教習できる力(経験)をつけ、適切なアドバイスができるように。必要に応じてブレーキが踏めるように。

【スライド2、3】

年次報告において、先生方の報告の中にあつた「知財教育に触れての先生方や生徒の気づき」を振りかえると、いかに実践的な学びが師弟同行で行われているかが分かります。

【スライド4】

これらの共通点を上げると、先生方皆さんが、自身の教育実践によって磨かれた「理念」を持って取り組まれていること。そして生徒は「夢」を語り、それが地域の「光」となっていること。生徒が、地域のための日本のためにと、当たり前のように意識しているところがすごいと感じました。生徒が、郷土愛の段階から一歩進んで自分にできることを為し、またその可能性を広げていこうとしている姿に、感銘を受けました。

【スライド5】

成果と課題を振りかえれば、まず成果としては、前述のとおり先生方は、自分の言葉で知財教育を語り、それぞれ特徴的な取り組みを実践される程、指導ノウハウを蓄積されています。その上で、まだまだ授業力を向上したいという熱意も感じます。そして、まだ知財教育に触れていない他の先生方にも何とか普及できないかと考えていらっしゃると思います。その「普及」についてが、我々が抱えている課題であると感じます。

【スライド6】

それでは、何が普及にあたり壁になっているのか考えてみました。様々な場面で2つの壁を感じています。1つ目の壁は、「知財教育をしなければならないの？」という、そもそもの必要性についての議論です。2つ目の壁は「基礎基本が大切」で、知財は「基礎基本」ではないので重要ではないという考え方です。

【スライド7】

必要性については、新学習指導要領にも謳われていますが、それ以前からもいろんな場面で、農業教育の中での必要性が示されています(例えば中教審会議資料：スライド7)。

【スライド8】

次に基礎基本についてです。私たち農業教員は基礎基本を、「栽培・飼育の基礎知識と基本的技能」と暗黙の内に捉えています。実際に文科省の資料をあたってみると、スライド8のように、時代とともに、求められる基礎基本の内容は変遷することが分かります。今の農業を取り巻く環境において、「栽培・飼育の基礎知識と基本的技能」だけで社会的に自立できるかというと厳しいものを感じます。私たちの

基礎基本の認識自体を、捉え直す必要を感じます。

このように普及の壁は厚いものではなく、壁があるとすれば、心理的な部分での障壁です。これらは先生方の発表にあったように、他の先生方と一緒に取り組みながら指導法や効果を共有していくことが効果的であると思います。

【スライド9】

最後に今後の課題として、産学連携に触れます（スライド9）。今回、知財を通じた産学連携の事例が活発に報告されました。産学連携において、必要な視点と感じるのは、誰に主体があるかという点です。自らを振り返っても、生徒の権利保護等の事情から、産学連携において会社との連絡や、商品化、販売に至る判断など、教師が主体になりがちであるということです。

この問題について、少し離れて、自動車学校を例にとり考えると、自動車学校では卒業にあたり「運転できる力」を保証します。では農業高校で保証している力とは何でしょうか？それを「産業界で活躍する力」としたとき、自動車学校で路上教習にあたる実践を通じて体験的に身に付けること（＝産学連携）が重要だと言えます。すなわち産学連携を教材にして、いかに生徒にその要諦を体験させ、身に付けさせるかがポイントです。そのためには、産業界の交通ルールにあたる知財関係法規を学ばせることが必要になりますし、我々教員に、生徒にアドバイスできる力が必要だと思います。

農業教育が、産業界や他の専門高校と対話できる共通の知財という言葉を持ったことで、学習内容や教育手法がどんどんブラッシュアップされているのを感じます。良い形で来年度につなげていきましょう。

3) 商業高等学校（平成24年1月25日）

コーディネーター

全国知財・創造教育研究会 会長
長崎県立島原農業高等学校 教諭
北海道下川商業高等学校 教諭

竈原 裕明 氏
陳内 秀樹 氏
佐藤 公敏 氏

3-1) 竈原 裕明 コーディネーターの講評

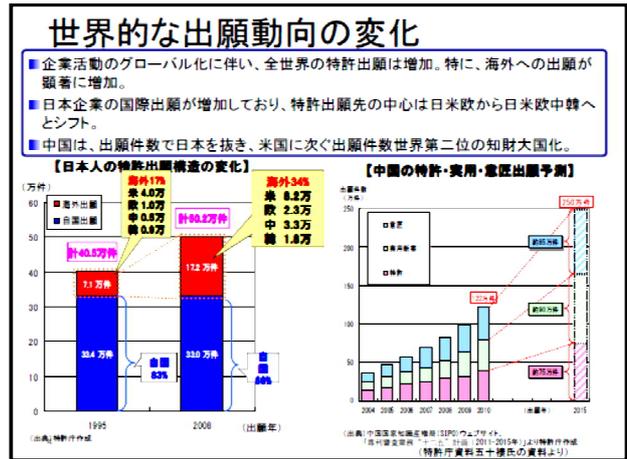
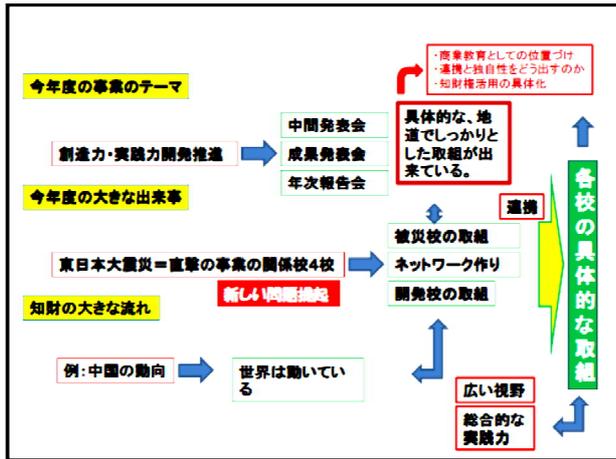
年次報告会のまとめにかえて
(商業)

コーディネーター
竈原裕明

<取組から>地域の特産作り、知財PRアニメ、生徒が企画実施、プランニング
 モ→アイデアから実践へ、甲州かるた(仮称)の作成→形にしたい<著作権
 なのか、意匠なのか
 <アイデアの創造>プレスト・ブレライ・KI、語句連想、行動観察、ユーザーお絵
 かきと吹き出し(インサイトの発見)、その他
 <事例の教材化>・・・「白い恋人」と「面白い恋人」の問題点と討議
 <知財教育コーナー>
 <教材化>知識学習だけで興味を持たせるのは難しい。教材研究の大切さ。企
 業のDVD、モチベーションを高める取組
 <取組の継続>
 <担当者会議>定例化:クラスのばらつきが無くなっている。
 <学校全体として>教員の確保、教員の意識<校内の知的財産教育新聞
 <知財サイクルと商業高校の係わり>・・・まとめ・コーディネートしていけば？
 →取組のプロセスが大切・・・その中で何故権利化が必要か、知財をいかに活
 用するのかまで持って行く！ (A班の討議から)


 何もかも無くなった中で
 紙と鉛筆の取組からスタート
 あるもので何が出来るのか！

商業の次年度取組の継続と連携に向けて！



年次報告会
商業高校

陳内秀樹

商業教育×知財教育

- 高校のブランド力に乗った売れる商品から
- 本当に商品力のある商品へ！
一発ものから、息の長い商品へ。地域限定から全国へ！
→生徒に、真の商品開発力がついている
(課題発見力・発想力・デザイン力・コミュニケーション能力等)

専門教育×知財教育で様々な事例が発表された

座学

実習

演習

テキスト活用 学校内での実習 試作品づくり アイデア発想 KJ・マインドマップ

DVD教材 産学連携 ケース教材 映像、記事 ティベート等

フレームワーク教材 企画書、ワークシート

知識の評価はテストでできるが… 自己評価 授業評価(生徒に自信をつけさせられたか?)

【参考資料】農業高校での事例

科目「農業経営」単元：生産工程・流通工程

名前	特徴	価格	量
海外産 干しぶどう	安い	80円	80g
国産 干しぶどう	高い	200円	80g
手づみ 枝付き干しぶどう	パッケージ +ネーミング	480円	80g
カリッと種あり 干し葡萄	工夫したパッケージ +ネーミング	980円	80g

バリューチェーンのどこで、価値が高まったのでしょうか？

産学連携のポイント

産学連携を教材として

…どういった人材を育成したいのか

- 自動車学校モデル
コースで実習→路上教習→運転できる力
- 専門高校
校内で実習 →産学連携→産業界で活躍する力
誰が運転？
生徒にハンドルを握らせたい。
→交通ルール≒知財権関係法規
→教員が教習できる力(経験)をつけ、適切なアドバイスができるように。必要に応じてブレーキが踏めるように。

評価例

…生徒の成長の見える化で生徒へフィードバック！

各校、非常に生徒が伸びているので、評価を生徒にフィードバックして学習効果を高めたい。グラフは評価の観点例(値も例)

社会人基礎力をベースにした自己評価事例

【スライド2】

年次報告会では、商業専門教育の中に、知財教育の教材や手法を有機的に取り入れ、そこから商品力の高い商品が生徒と企業の協業（産学連携）によって生まれていることが報告されました。特に、以前に増して、産学連携を通じていかに生徒を深い学びに導くかという視点で報告がなされたと感じました。

【スライド3】

多様な指導法が報告され、特に産学連携や演習の事例を通して、生き生きとした教室の雰囲気を感じました。

【スライド4】

私自身が学校で使った教材を一つ紹介させていただきます。この教材は3つのねらいがあります。最初は価格を隠しておいて、価格を想像させ、ワークシートに記入させます。その後、実際の価格を開示して、自分の想像した価格と比較することで気づきを促すプロセスがあります（ねらい1）。そして、それぞれの価格（価値）を生み出しているのは、バリューチェーンのどのプロセスであるか考えさせます（ねらい2）。販売・マーケティングでの価値上昇に注目してしまいがちですが、この中身は国産干しぶどう（200円）であり、安価な海外産ではないことに注目すると、販売マーケティングの価値を担保しているのは、国内産の高い生産加工技術であるということに気づきます（ねらい3）。

【スライド5】

最後に今後の課題として、産学連携（スライド5）と評価（スライド6）について触れます。今回、知財を通じた産学連携の事例が活発に報告されました。産学連携において、必要な視点と感じるのは、誰に主体があるかという点です。自らを振り返っても、生徒の権利保護等の事情から、産学連携において会社との連絡や、商品化、販売に至る判断など、教師が主体になりがちであるということです。

この問題について、少し離れて、自動車学校を例にとり考えると、自動車学校では卒業にあたり「運転できる力」を保証します。では商業高校で保証している力とは何でしょうか？それを「産業界で活躍する力」としたとき、自動車学校で路上教習にあたる実践を通じて体験的に身に付けること（＝産学連携）が重要だと言えます。すなわち産学連携を教材にして、いかに生徒にその要諦を体験させ、身に付けさせるかがポイントです。そのためには、産業界の交通ルールにあたる知財関係法規を学ばせることが必要になりますし、我々教員に、生徒にアドバイスできる力が必要だと思います。

【スライド6】

評価については、どの観点で評価するか迷うところだと思います。そこでスライド6のような評価例を参考に作ってみました。経産省から出ている社会人基礎力の7観点（主体性、働きかけ力等）で自己評価させたとして、レーダーチャート化したものです（値は仮）。このような形で生徒に、自信の成長を見える化しフィードバックすることで学習の効果が高まると感じます。

以上をまとめとします。良い形で来年度につなげていきましょう。

3-3) 佐藤 公敏 コーディネーターの講評

本日は、大変お疲れ様でした。

私からは年次報告の感想を含めまして、いくつかお話しをさせていただきます。

ここ数年、商業における知財教育は、実践事例が多岐にわたり、ますます充実してきたことが感じられます。

その中で共通していることは、商業における知財教育は、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育むという、学習指導要領の求める課題解決能力を引き出し、伸ばさせることに大いなる成果をあげていることです。

今年度の先生方の報告も、生徒たちが現実の課題と向きあい、そこから考えて解決を迫る報告が多数ございま

た。とても参考になります。

一つのやり方や特定の知識だけでは、こうすればよいのだとすぐにはわかりませんし、本物の答えは出ません。課題を解決するためには、それまで蓄積してきた知識や商業教育で学んだ成果を駆使することが求められます。

先生方が実践で示されましたこのような苦労の積み重ねが、今求められている、一人一人の創造力の育成と課題解決能力や実践力の伸長に繋がると私は実感しています。先生方はいかがでしょうか？

また、本日取り組む中での課題もいくつか報告されました。それはすべて、前向きな課題です。この課題を解決できたら、もっと子供達が生き生きする、子供達の明るい笑顔がもっと見える、指導していて更に楽しくなる。先生方が課題と向かい合う、こんな報告だったと思います。

今後更に取り組みを充実し、出会う課題の解決をするためには、本事業で培った先生方とのネットワークと関係各機関のみなさまのひきつづきのご支援・連携の充実がカギだと思います。

今後も、新しい商業教育の一手として、お互い頑張っていきましょう。

4) 高等専門学校（平成24年1月30日）

コーディネーター

全国知財・創造教育研究会 会長

財団法人 茨城県中小企業振興公社 総括テクノエキスパート

山口大学大学院技術経営研究科 教授

籠原 裕明 氏

金子 紀夫 氏

木村 友久 氏

4-1) 籠原 裕明 コーディネーターの講評

年次報告会のまとめにかえて
(高専)

コーディネーター
籠原裕明

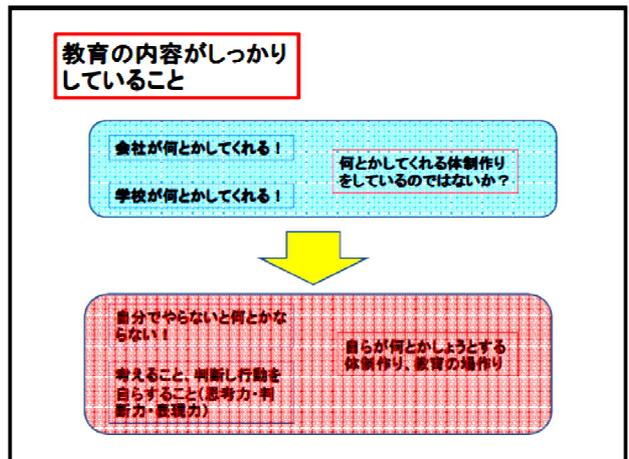
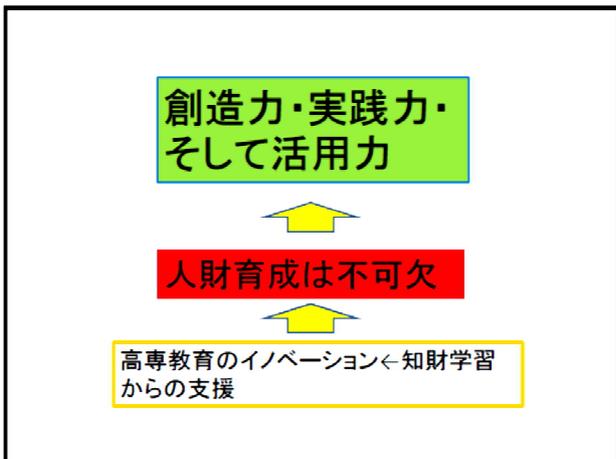
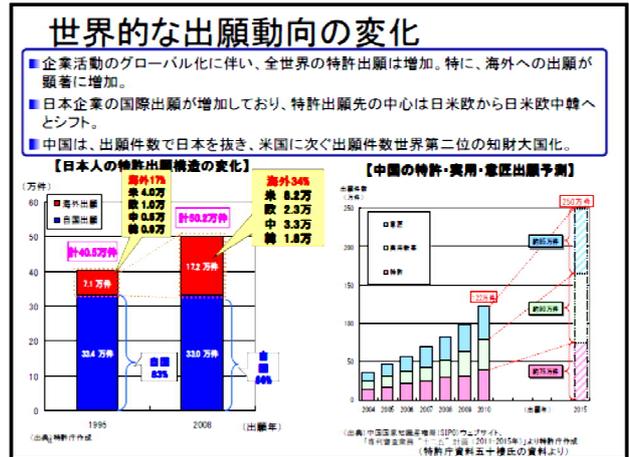
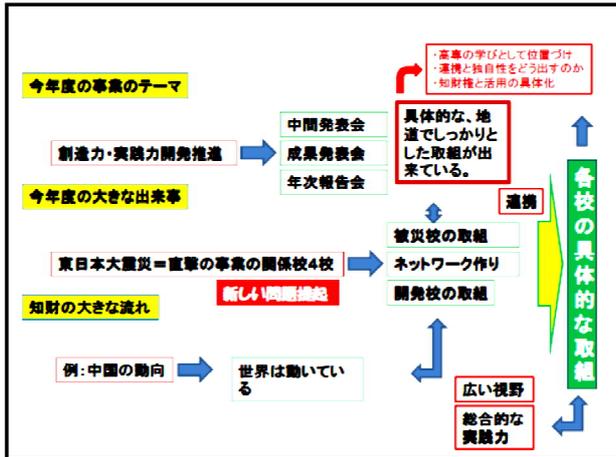
ものづくりと創造性
体系化・カリキュラム化
一般教科での学習
IPDL検索
アイデアコンテスト
アイデアシートの活用弁理士
知財サイクル活用プラン
実践交流の大切さ

低学年
実践力とは
ロイヤリティの生まない知財
評価方法・評価の取り方

<A班から>

何もかも無くなった中で
紙と鉛筆の取組からスタート
あるもので何が出来るのか！

高専の次年度取組の継続と連携に向けて！



未来を担う創造的・実践的で産業に寄与する若者を育てる、各校での地道な取組と開発推進校の活動を通じた情報共有（配付される資料・データを含めて）・連携（地域や過去の経験校を含めて）を期待しています！

科学の発展、それは科学の進歩ではない、人の創造力（想像力）（知恵）が進歩することである
NHK番組から

- <お願い>
- 1 ネットワークへの参加（次年度を含めて）
 - 2 DVD製作、活用へ協力を！
 - 3 成果発表会の資料の公開の協力を（開発推進校対象）

年次報告会コメント（金子） '12.1.30

- 使ってなんぼ…: お金、契約、事件、判例、ノウハウ
- 社会との連携: OB、専門家、企業人、テクノC
- IPDL: 研究の参考文献
- 知財検定: 3級→2級、場所、費用
- パテコン: 執念、Gr→?、アイデア・思いつき→X
- 発想法: 進歩性(なぜなぜ、固有の効果・作用)
- 低学年教育: 社会科など
- 知財ネットワーク: FBほか、高校との連携

知財教育実践の考え方 (年次報告会まとめに変えて)

山口大学技術経営研究科 木村友久
©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY. All rights reserved.

1

概要

- 技術高度化等への対応
技術の高度化、事業活動の国際化、開発途上国のキャッチアップ等に対応する形で、知財化および知財管理も更に高度な戦略が求められるようになった。
- 知財人材育成の環境変化
日本を取り巻く周辺国で知財人材育成が質量ともに充実しつつある。また、初等中等教育機関の学習指導要領改訂では、小中高において何らかの形で知財教育を実施することが規定された。

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY. All rights reserved.

2

概要

- 知的財産を素材とする教育の多面的効用
知財教育は最終出力としての「知財専門職人材」育成だけを目標としているわけではない。知財を教材に利用することで、学習者の、創造性育成、社会認識形成、就業力向上、専門分野学習の効率化等々の多面的な効用を実現することができる。
- 身近な話題を迅速に教材に取り込む
エンジン、醤油容器、ペーパーフィルター等、身近な話題を利用して、学習者の興味を引きつける指導。教材作成時の法的な疑問は、専門家に質問しよう。

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 3

技術高度化等への対応

知財戦略

従来	従来課題に新規課題が追加	現在
出願管理・権利化	→ → → → →	オープンイノベーション
研究開発マネジメント		オープンソース契約(GPL等)
職務発明のマネジメント		事業再編・企業買収と知財
権利共有の取り扱い		私的録音録画補償金事件
共同研究		招きテレビ事件等 最高裁判決
グラントバック		技術標準化戦略

高度化・加速化
実際には・・・難・・・対応

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 4

知的財産を素材とする教育の多面的効用

知財専門職育成

産業財産権標準テキストのラインアップ

専門教育を促進するアイテム

就業力向上

社会との関係を認識するアイテム

創造活動という人間の本来を励起するアイテム

・知的財産教育教本(第二版)【[リンク](#)】
現代GP「教職を目指す学生への実践型知財教育の展開」平成21年度報告書【[リンク](#)】
初等中等教育段階における知的財産教育の実践研究(平成18年度特許庁)大学における研究者用特許情報データベース活用モデルの構築と検証(同上)等は <http://www.kim-lab.info/extororg/extororg.html> から配信。

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 5

身近な話題を迅速に教材に取り込む

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 6

特許事例 キヤノンの知財戦略(消耗品戦略)

- 丸島儀一氏の著書から・・・
『知的財産戦略～技術で事業を強くするために』ダイヤモンド社 10/6

<p style="text-align: center;">—守りの権利—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自社事業を守り強くなるため ● コア技術 ● 侵害訴訟勝訴を意図 	<p style="text-align: center;">—攻めの権利—</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 弱み解消のため ● ノンコア技術 ● 相手に脅威を与えることを意識 ● 他社が使いたくなるような技術
---	--

第4章

参入障壁の形成

コア技術群の権利化
延命化

参入障壁・自社では使わないが他社の参入を阻止する権利

コア技術の延命化

プロセスカートリッジ
(機能ユニット)
トナー・インクカートリッジ

消耗品戦略

VS. 独禁法

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 7

商標・不正競争防止法 事例

- 時事ネタを話題に考えさせる・・・面白い恋人

【登録番号】第4778317号 【登録日】平成16年(2004)6月11日
【出願番号】商願2003-60719 【出願日】平成15年(2003)7月2日
【商標(検索用)】北海道銘菓、白い恋人[®]
CHOCOLAT BLANC ET LANGUE DE CHAT[®]Handmade & Original[®]Shiroi \ Koibito[®]ISHIYA \ GUARANTEED
【称呼】ホッカイドーメーカーシロイコイビト、シロイコイビト、ショコラブランエラングドゥシャ、ハンドメードアンドオリジナルシロイコイビト、イシヤギャランティード、イシヤ
【区分】1
【商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務】
30 チョコレート、チョコレートを使用してなる菓子、チョコレートを使用してなるパン

称呼類似

外観類似

観念類似

・市場、需要者の重複・・・陳列場所等々

©2012 YAMAGUCHI UNIVERSITY All rights reserved. 8

まとめ

最終到達目標は、国際化、標準化まで含んだ「知財戦略」等の態度形成であるが…そこに至るまでの教育手法等の開発は**途上**である…従って、到達目標を見据えながらも、各人材育成担当者が自己の専門や持ち味を生かした指導方法開発を着実に進めることが必要。

但し、産業界、大学院の段階では、
『知財戦略』に落とし込む力を形成すべき

国際化、標準化、オープンイノベーション等を含んだ「知財戦略」「技術戦略」の態度形成という最終到達目標を、頭の片隅に置きながら……

各学校の目的・特性と、学習者発達段階等に合わせた指導方法開発。

担当者の専門領域や持ち味、学習者の興味を勘案した指導方法の開発。

指導方法の定着化を考えた指導方法開発。